

## 第4期第5回松本市地域づくり市民委員会 会議要旨

開催日時 平成30年8月20日（月曜日） 午後3時から午後5時まで

開催場所 松本市役所本庁舎 3階 第1応接室

出席者（敬称略）

委員 廣瀬豊（委員長）、堀内正雄（副委員長）、赤沼留美子、大澤好市、木次由美子、草深邦子、小林修、佐藤佳子、神保孝彦、降旗都子、松澤幹夫、宮下鉄、宮林孝子

（欠席 倉澤聡、近藤博志、角野園恵、古幡安志）

オブザーバー 今村篤史（松本市市民活動推進委員会委員長代理）

事務局 地域づくり部長 守屋千秋

地域づくり課 課長 西澤広幸、協働推進担当課長 田村明彦、  
課長補佐 廣田圭男、協働推進担当 主査 小川敏由、  
地域づくり担当 係長 宮下拓也、主事 白澤隆文  
インターン実習生 小林華

### 1 開会

（進行 廣瀬委員長）

### 2 会議事項（議長 廣瀬委員長）

#### (1) 地域と市民活動団体の協働について

##### ア 事務局説明

（事務局 小川）

- ・別紙1に基づき市による取組み状況を説明

##### イ 意見交換

（廣瀬委員長）

- ・市民活動団体に所属し、市民活動推進委員会の委員でもある佐藤委員と赤沼委員にお話を伺いたい。

（佐藤委員）

- ・NPO 法人中信多文化共生ネットワークに所属している。活動の原点は、外国籍の子供への日本語教育。現在は、学校指導課からの委託により、松本市子ども日本語教育センターを運営している。また、松本市多文化共生プラザで外国人に関する相談を外国人、日本人双方から受け付けている。
- ・外国の人が実際に住んでいる「地域」とどう結びつき、どう地域課題に取り組んでいくか、ということも、自分達の課題と考えている。
- ・実際に地域を支援する活動を行った事例においては、複数の市民活動団体がつ

ながら、市民活動団体と町会がつながり、その緩やかなつながりの中に行政の関係部署も参加して、それぞれの縦割りではなし得ないことが出来たと思っている。

(赤沼委員)

- ・松本わらべ館設立準備室では、木のおもちゃを60点ほど所有し、遊びの場づくりを行っている。
- ・おもちゃ病院として、壊れたおもちゃを無償で修理する先生も一緒に活動している。子供達は、壊れたおもちゃを直すところをライブで見ること、物事は原因が分かれば手が打てるという原理を学ぶことが出来る。
- ・今は便利すぎて何でも買えてしまうが、大人が作った物で遊ぶのではなく、子供がものづくりを体験し、自ら考え、工夫して遊ぶことを大事にしている。
- ・町会との関係に関しては、福祉ひろばにおもちゃの出前を依頼されることが増えてきている。子供だけでなく、ふれあい健康教室で高齢者向けにコマを持っていくこともある。
- ・これまで移動しながら活動していたが、縁あって岡田地区に拠点を設けることになり、今後は株式会社として活動し、観光客向けに農業体験の取次ぎなども行う予定。
- ・地区に対しては、説明会を4～5回重ねた結果、徐々に理解が得られ、協力・応援してくれる人も出てきた。

(廣瀬委員長)

- ・具体的な例を聞かせていただいたところで、他の委員の皆さんからもご意見をいただきたい。

(小林委員)

- ・テーマについて整理が必要。「市民活動と協働を推進するための基本指針」では、基本目標として「松本市は、市民活動と協働を推進しながら『住民がいきいきと暮らせる住み良い地域』をつくります。」ということが掲げられているが、協働する主体としては、行政、町会などの地域団体、市民活動団体の3つがあると思うが、主体はその3つなのか、そのうち2つなのか。

(廣瀬委員長)

- ・基本指針のうち「協働の推進」に関する部分を本委員会のテーマとして考えてよいのではないかと。
- ・35地区と市民活動団体がどうつながるのが見えづらい。35地区と市民活動サポートセンターが上手くつながっていればよいのではないかと。

(小林委員)

- ・自分の所属する団体でも市民活動サポートセンターを利用しているが、自分たちの活動だけで完結し、手一杯でもあり、他の団体と連携しようという意識はないし、必要性も感じていない。
- ・町会は自主性があるし、NPOにも自主性がある。また、NPOには地域性は

なく、地域と交わるとしても、特定の期間だけ。両者のマッチングは難しいのではないか。

(降旗委員)

- ・ヒントは、赤沼委員が福祉ひろばにおもちゃを持ってきてほしいと頼まれた、その最初のきっかけは何か、というところにあるのではないか。

(赤沼委員)

- ・はっきりとは覚えていないが、市の子育て支援ネットワークに福祉ひろばのコーディネーターや育成会役員が出入りされていたことがきっかけではないか。

(降旗委員)

- ・現状はそのように人が人をつなげていく感じだと思うが、もっとつながりやすくするためのシステム作りが必要ではないか。行政は情報を持っているので、それを必要とする人たちに流していくことが重要。NPOにも地域にもメリットになると思う。

(宮下委員)

- ・町会のリーダーの考え方で随分情報の入り方が違う。
- ・こんなに沢山の市民活動団体があるのを知らなかった。今はそれぞれに活動していると思うが、横のつながりができれば、強固なものになっていくと思う。

(廣瀬委員長)

- ・なかなか方向性が出ないところではあると思う。
- ・「きっかけ」という言葉も出てきたが、この後の「地域づくり推進体制」の中でも「きっかけづくり」という話もある。
- ・市民活動団体の情報を知る中で、それをどう地域づくりに生かしていくのか、また、地域として情報をどう取り込んでいくのか、というところがポイントになるのではないか。

(廣瀬委員長)

- ・今村委員長代理から、この件についてご発言をお願いしたい。

(今村市民活動推進委員会委員長代理)

- ・市民活動推進委員会でも同じ課題について話し合っている。
- ・35地区と市民活動団体は、目指すところは同じで、松本市がより良い地域、誰もが暮らしやすい場所になっていくこと。ただし、土台やアプローチの仕方が違うし、地域であれば地域に根付いた日頃の顔の見える関係、市民活動団体であればそれぞれの得意分野など、それぞれの強みがある。
- ・協働というが、両者ががっぷりつく必要はない。
- ・それぞれの強みをお互いに必要な時に補い合う、協力し合うという形で、Win-Winの関係で同じ目標に向かって進んで行くことが大事なのではないか。
- ・そういった意味で、両者がどう協働していくかということがポイントになるし、両委員会でのその点についてこれから議論を深めていかればよいと思う。

(廣瀬委員長)

- ・今日の話の踏まえながら、検討を続けていきたい。

(2) 地域づくり推進体制について

ア 説明

(事務局 宮下)

- ・グループ分けについて説明

(廣瀬委員長)

- ・グループワークの方法について説明

イ グループワークの結果

(ア) 「参加のきっかけづくり」について

別紙1のとおり

(イ) 「ニーズの変化に対応できる地域組織の運営」について

別紙2のとおり

(3) 今後のスケジュールについて

ア 事務局説明

(事務局 宮下)

- ・資料に基づき説明

イ 質疑等

なし

(4) その他

ア 前回委員会の会議録のホームページ掲載について

(ア) 事務局説明

(事務局 宮下)

- ・前回議事録の修正点とホームページ掲載について説明

(イ) 質疑等

なし

5 閉会

(以上)